

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学B	2	3年・1類・A型	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
HHHHHHH	改訂版 新編 数学B 数研出版		基本と演習テーマ数学II+B

科目の到達目標
ベクトル、数列について基礎的な知識と発想の仕方を理解させ、知識の習得と技能の習熟を図る。
事象を数学的に表現・考察する能力を育てる学習を通して、数学的な見方や考え方のよさを認識させ、さらに、これらを活用する態度を伸ばす。

評価の観点と方法について
評価は「知識、理解」「関心、意欲、態度」「数学的な見方や考え方」「表現、処理」の4つの観点に基づいて定期考査、小テスト、レポート、平素の学習意欲、学習態度、出席状況、によって行なう。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
第一 学期	4	第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列	等差数列や等比数列についての基本的な知識及び計算技能を習得させると共に規則性を発見できる能力を養う。	数列 等差数列 等差数列の和 等比数列 等比数列の和	等差数列と等比数列の一般項とその和が求められる。
	5	<中間考査>			
	6	第2節 いろいろな数列	階差数列など色々な数列の一般項、または和を求める際の基本的発想を習得させると共に Σ の計算についても慣れるようにする。 漸化式のいくつかのパターンを取り扱い、一般項が求められるようにする。	和の記号 Σ いろいろな数列 階差数列 数列の和 分数で表わされた数列の和 群数列	Σ 記号が自由に使え、数列の和が求められる。
	7	第3節 数学的帰納法 <期末考査>		漸化式	漸化式を用いて一般項が求められる。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
第二学期	9	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算	ベクトルの基本的な概念を理解し、基本的な図形の性質や関係をベクトルを用いて表現できるようにする。	ベクトルの意味 ベクトルの加法・減法・実数倍 ベクトルの成分	ベクトルの演算ができ、図形に活用できる。
	10	ベクトルの内積 <中間考査>	直交座標とともにベクトルが図形を考察する上の有効な道具である事を理解する。	三角比の復習 ベクトルの内積 位置ベクトル ベクトルの図形への応用	内積の意味が理解でき、活用できる。
	11	第2節 ベクトルと平面図形 第2章 空間のベクトル	平面上のベクトルで習ったことを空間でも活用できるようにする。	空間座標 空間におけるベクトル	空間の概念を理解でき、ベクトルを空間図形に利用できる。
	12	<期末考査>			
第三学期	1	高校数学のまとめ <学年末考査>	高校数学の内容をふりかえる。	数学ⅠA ⅡB の中からいくつかの分野を再確認する。	
	2				
<p>その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）</p> <p>数学Bで学習するベクトル・数列では、新しい考え方を取り扱います。とまどうこともあるかもしれませんが、授業を真剣に受講していれば必ず理解できます。数学の力を上げるためには、自分で問題を解くことが必要です。授業が終わるたびに問題を解きましょう。また出された課題は必ず解き提出すること。日々の継続した学習によって、苦手が得意に変わります。努力すればするほど学力は上がります。学習を続けることによって、最終学年のこの1年、あなたは数学の魅力を堪能できるはずです。授業、復習、予習を繰り返し、数学を得意科目にして卒業してくれることを願っています。</p>					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学Ⅲ	4	3年・1類・B型	選択
授業担当者	教科書名		副教材等
HHHHHHHH	新編 数学Ⅲ (数研出版)		基本と演習テーマ 数学Ⅲ (数研出版)

<p>科目の到達目標</p> <p>・式と曲線、極限、積分法とその応用における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。</p> <p>・単に解法テクニックの暗記だけではなく、根底にある数学的なものの見方・考え方を常に意識する姿勢を育み、多面的・発展的に考え、論理的に思考し表現する能力を養う。</p>
--

<p>評価の観点と方法について</p> <p>「知識・技能」「思考・判断・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に基づいて、平素の学習意欲や学習態度を重要視して、基本的な知識の理解度、技能の習熟度、思考力、表現力を定期考査、課題プリント、レポート、小テスト、課題テスト等で評価する。</p>

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	第4章 極限 1節 数列の極限 2節 関数の極限	数列や関数値の極限の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	数列の極限、無限等比数列、無限級数 関数の極限、三角関数と極限 関数の連続性	・不定形の関数の式を変形し、関数の極限を求めることができる。
	5	(中間考査) 第7章 積分法 1節 不定積分	積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする 定積分の置換積分法、部分積分法に習熟する。	不定積分 置換積分法と部分積分法 いろいろな関数の不定積分 定積分とその基本性質 置換積分法と部分積分法	・置換積分法、部分積分法について理解し、それらを用いて不定積分・定積分を求めることができる。
	6	2節 定積分	簡単な微分方程式や区分求積法について考察し、定積分から不等式についても学び、無限級数の収束、発散を調べる。	定積分のいろいろな問題	・不等式を用いて定積分を評価することができる。
	7	3節 定積分の応用 (期末考査) [夏期講習]	いろいろな図形の面積、いろいろな立体の体積を求めることができるようにする。	面積、体積、道のり、曲線の長さ 《数学Ⅲ終了》 極限・微分・積分を中心に演習する	・図形の面積や体積、曲線の長さなどを求めることができる。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	大学入学共通テスト対策 個別試験対策	大学入学共通テスト対策 大学入試共通テストに必要な基礎力を付ける、問題の形式に慣れる。	数学演習③の担当者と協力して、共通テスト対策と数学Ⅲの演習を行う。 大学入学共通テスト対策 プレテストを利用して、共通テスト特有の出題形式になれる。	・大学入試共通テストの難易度、問題の内容、問題の形式などに慣れていき、大学入試共通テストで高得点を取るための実力とテクニックを身に付けているか。
	10	(中間考査)	個別試験対策 数学Ⅲの問題を通して、数学ⅠAⅡBの内容も確認する。	個別試験対策 数学Ⅲ終了後に適当な演習書を用い、夏期課題として数学Ⅲの基本事項の総復習を課す。中間考査まで問題演習を行う。	・数学Ⅲの典型的な問題の解法が身につけているか。
	11	大学入学共通テスト対策		11月からは共通テスト対策に集中する。	
	12	(期末考査) [冬期講習]		共通テストのプレテスト演習	
三 学 期	1	総復習	共通テスト受験組 共通テストのプレテスト演習。共通テスト終了後、個別試験対策	プレテスト演習	・今まで学習してきたことが身につけているか。
	2	(学年末考査)	進路決定組 数学Ⅲの要点整理	教科書の例題の復習	

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

数Ⅲの授業では第2章、第4章、第7章を学習する。第2章「式と曲線」の第1節については、G.W. の課題とする。G.W. 明けに課題テストと中間考査を利用して、習熟度を確認する。第2節については、2学期に行う演習を通して、理解を深める。数学Ⅲは、入試問題として出題される問題は典型的な問題が多く、教科書の例題・応用例題を身に付けることが大切である。また、問題演習を通して、身に付けた解法を各自の言葉で整理することが重要である。やらされる勉強ではなく、自ら自発的・積極的に数多くの問題を解くことによって、入試に対応できる力をつけてほしい。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学演習①	4	3年・1類・B型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
HHHHHHH	なし	ベーシックスタイル数学演習 I A II B (数研出版) 数学 I・A 一問一答 (東進ブックス)	

科目の到達目標
数学 I、A の基本事項を復習し、これらの基本的な知識を習得する。その後、マーク形式の問題を中心に演習し、大学入試、大学入学共通テスト、医療系の専門学校に対応できる学力を養成する。

評価の観点と方法について
日常の学習における意欲・関心・態度を重視し、数学的な見方や考え方・問題解決の処理・知識の理解度を小テスト、課題テスト、定期考査、レポート等で確認していく。特に、課題レポートの提出および内容を重要視していくので、必ず提出すること。以上を総合的に評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	数学 I・A ・2次関数 ・データの分析 ・整数の性質	定理、公式の再確認を行い、基本的な解法の定着を図る。	「公式・用語の確認編」の小テストを実施し定着を図る。 「テーマ別演習編」の問題を用いて公式・定理の使い方を確認し、定着度を小テストや定期考査を用いて確認する。	基本的な定理・公式を身につけて、それらを正確に使うことができる。
	5	<中間考査>	典型的な入試問題に慣れ、難度の高い問題にもチャレンジすることで全体を見通す力を養成する。	「入試問題実践編」の問題を用いて、入試における基本問題を解く上で、公式・定理をどのように使用するのかを学ぶ。	問題を解く上で、必要な定理・公式を選択し、それらを用いて解くことができる。
	6	数学 I・A	身につけた定理・公式・定石を利用して、標準的な問題を解く力を養成する。	「ベーシックスタイル I II AB」の Complete 問題を解く。	基本的な定理・公式・定石を組み合わせ、標準的な問題を解くことができる。
	7	<期末考査>			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	数学I・A	1 学期で身につけた定理・公式・定石を利用して、標準的な問題を解く力を養成する。	「ベーシックスタイルI IIAB」の Complete 問題を解く。	基本的な定理・公式・定石を組み合わせ、標準的な問題を解くことができる。
	10	<中間考査>			
	11	大学入学共通テスト対策	プレテストをすることにより、共通テスト形式の問題に慣れ、時間の使い方を身につけさせる。	プレテストを授業中に実施する。	誘導のねらいに気づき、それを利用して、問題を速く、正確に解ける。
	12	<期末考査>			
三 学 期	1	数学I・A <学年末考査>	数学 IA の基本的な公式・定理を再確認し、それらを使えるようにし、一般教養としての数学を身につける。	数学 IA 一問一答を用いて、基本事項の再確認をする。	数学 IA の基本事項が身につけている。

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

この授業では、大学入学共通テストで、平均点以上の得点を確保できることを目指します。

数学は考える力を育て、問題の意味を適切にとらえ、自分の力で判断していく力が要求される科目ですが、必要事項を覚えていないとこれらの力が身につくことはありません。暗記しなければならないことは暗記すると割り切って学習に臨んでもらいたい。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学演習②	3	3年・1類・B型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
HHHHHHH	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・数学Ⅱ・B 一問一答 2nd edition(東進ブックス) ・プリント 	

<p>科目の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学ⅡBの基本事項の再確認と十分な基礎学力の定着を第1目標とし、その上に立って代表的典型的な入試問題の取り組み方と、思考パターンおよび解法の技術を身に付ける。 ・単に解法テクニックの暗記だけではなく、根底にある数学的なものの見方・考え方を常に意識する態度を養う。 ・さらに日々の演習により応用力と実践力を高め、大学入学共通テスト・国公立2次試験および私立大入試に対応できる実力を養成する。
--

<p>評価の観点と方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の学習における意欲・関心・態度を重視し、数学的な見方や考え方・問題解決の処理・知識の理解度を小テスト、課題テスト、定期考査等で確認していく。 ・課題レポートの提出および内容を重要視していくので、必ず提出すること。 ・以上を総合的に評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	数学Ⅱ ・式と証明 ・複素数と方程式 ・三角関数 ・指数関数と 対数関数	定理、公式の再確認を行い、基本的な解法の定着を図る。	頻出問題を解く上で必要な知識を「数学Ⅱ・B 一問一答」を用いて事前学習し、確認テストを実施することで、学習状況を把握する。 授業ではプリントにまとめた典型問題の解説を行う。解説が終わった問題の解法を各自の言葉でまとめる。 授業は以下のサイクルで実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習確認テストの結果 ・基本的な定理・公式を正確に使うことができる。 ・典型問題の解法を身に付けている。
	5			事前学習確認テスト ↓ 典型問題の解説 ↓ 典型問題の解法の整理 (各自が自分の言葉でまとめる)	<ul style="list-style-type: none"> ・解法の整理ができている。
	6	(中間考査) ・図形と方程式 ・積分法と積分法 ・平面ベクトル			
	7	(期末考査) [夏休み]		共通テスト対策の問題集を配付し、問題演習をする。	

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	・空間ベクトル ・数列		数列終了後、以下のように進める。	
	10	共通テスト対策	共通テスト特有の長文問題に慣れる。問題文の中から必要な情報を読み取る。	冬休みから実施される共通テスト対策（プレテスト演習）を有意義に受講できるように、共通テストのプレテストを課題とし、3回の授業を用いて、1回分のプレテストを解説する。	・プレテストに取り組んでいる。
	11	(中間考査)	解説を通して、共通テスト特有の出題形式の問題の解き方を身に付ける。		・誘導のねらいに気づき、それを利用して、問題を速く、正確に解ける。
	12	(期末考査) [冬休み]		共通テストのプレテスト演習をする	
三 学 期	1	数学Ⅱ・B (学年末考査)	これまでに学習した知識を整理する。 共通テストの本番で目標の点数をとるイメージができるようになる。	・共通テスト受験組 共通テスト対策に参加し、共通テスト後は、個別試験対策を行う。 ・進路決定組 数学ⅡBの基本的な公式・解法の再確認する。	
	2				

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

授業を聞いているだけでは実力はつかない。目標を定め、それに向かって必死に努力する。やらされる勉強ではなく、自ら自発的積極的に数多くの問題を解くことによって、入試に対応できる力がついてくる。良問を1題でも多く解き、各自の言葉で解法をまとめる。自分の言葉でまとめることで、思い出しやすくなり、利用もしやすくなる。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学演習③	3	3年・I類・B型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
HHHHHHHH	新編 数学Ⅲ (数研出版)	基本と演習テーマ数学Ⅲ (数研出版) ベーシックスタイル数学Ⅲ (数研出版)	

科目の到達目標
・複素数平面、式と曲線、微分、微分法とその応用における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識の習得と技能の習
熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。
・単に解法テクニックの暗記だけではなく、根底にある数学的なものの見方・考え方を常に意識する姿勢を育み、多面的・発展的に考え、論理的に思考し表現する能力を養う。

評価の観点と方法について
「関心・意欲・態度」「数学的な見方や考え方」「表現・処理」「意識・理解」の4つの観点に基づいて、平素の学習意欲や学習態度を重要視して、基本的な知識の理解度、技能の習熟度、思考力、表現力を、定期考査、課題プリント、レポート、小テスト、課題テスト 等で評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	第1章 複素数平面	複素数を用いて様々な図形等の考察ができるようになる。	1. 複素数平面 2. 複素数の極形式 3. ド・モアブルの定理 4. 複素数と図形	・複素数について理解しているか。 原点に関する回転、 n 乗根との関連を理解しているか。 図形への応用問題を解けるか。
	5	第5章 微分法 第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな関数の導関数 (中間考査)	積・商の導関数、合成関数・逆関数の微分法を身につける。 いろいろな関数の導関数を求める	1. 微分係数と導関数 2. 導関数の計算 3. いろいろな関数の導関数 4. 第 n 次導関数 5. 曲線の方程式と導関数	・いろいろな関数の導関数を求めることができる。
	6	第6章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用	導関数を用いていろいろな曲線の接線の方程式を求めたり、関数値の増減やグラフの凹凸などを考察し、微分法の有用性を認識する。	1. 接線の方程式 2. 平均値の定理 3. 関数の値の変化 4. 関数のグラフ 5. 方程式、不等式への応用 6. 速度と加速度 7. 近似式	・接線・法線の方程式が求められることができる。平均値の定理に興味を持ち図形的意味を考察しようとする。関数の増減、極値、グラフの凹凸および変曲点などを調べてグラフがかけ、方程式・不等式に活用できる。
	7	(期末考査) 【夏期講習】			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	大学入学共通テスト対策	大学入学共通テストの出題形式に慣れる	数学Ⅲの授業と協力して、大学入学共通テストに向けての対策を実施すると同時に数学Ⅲを必要とする生徒に対しては個別対応する。	・誘導のねらいに気づき、それを利用して、問題を速く、正確に解ける。
	10	(中間考査) 大学入学共通テスト対策			
	11				
	12	(期末考査)			
三 学 期	1	数学Ⅱ・B (学年末考査)	数学Ⅱ・Bの基本事項を再確認し、一般教養程度の知識を身につける	ベーシックスタイルを活用して、問題演習をする。	・数学ⅡBの公式・定理・定石がみについているかどうか。

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

この授業では、数学Ⅲの基本事項を身につけ、標準的な入試問題に対応できる力を養成することを目的とする。数学は考える力を育て、問題の意味を適切にとらえ、自分の力で判断していく力が要求される科目ですが、必要事項を覚えていないとこれらの力が身につくことはありません。暗記しなければならないことは暗記すると割り切って学習に臨んでもらいたい。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学演習①	2	3年・1類・C型	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
HHHHHHH	なし	ニュージャスト数学I+A (東京書籍)	

<p>科目の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題演習を通して、数学IAの基本事項の再確認と十分な基礎学力の定着を目標として取り組む。 ・数学的なものの見方・考え方を常に意識し、初めて見るような問題にも積極的に挑戦する姿勢づくりを行う。
--

<p>評価の観点と方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の学習における意欲・関心・態度を重視し、数学的な見方や考え方・問題解決の処理・知識の理解度を小テストや課題レポート、定期考査等で確認していく。 ・特に、課題レポートの提出および内容を重要視していくので、必ず提出すること。
--

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	1 数と式 (数学I)	定理、公式の再確認を行い、基本的な解法の定着を図る	定期的の確認テストを行い、学習内容の定着を図る。	基本的な公式、定理を理解し、教科書の応用レベル問題を解くことができるか。
	5	(中間考査)			
		2 2次関数 (数学I)			
	6	3 図形と計量 (数学I)			
	7	(期末考査)			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	4 データの分析 (数学I) 5 場合の数と確率 (数学A)	定理、公式の再確認を行い、基本的な解法の定着を図る	定期的に確認テストを行い、学習内容の定着を図る。	基本的な公式、定理を理解し、教科書の応用レベル問題を解くことができるか。
	10	(中間考査)			
		6 図形の性質 (数学A) 7 整数の性質 (数学A)			
	11				
	12	(期末考査)			
三 学 期	1	数学IAのまとめ (学年末考査)	数学IA全体の確認	プリント等を用いて数学IAの全体的な確認をする。	基本的な公式、定理を理解し、教科書の応用レベル問題を解くことができるか。

その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など)

授業を聞いているだけでは実力はつかない。やらされる勉強ではなく、自ら自発的積極的に数多くの問題を解くことによって、力がついてくる。定期的に行う小テストで理解できているかを確認し、理解できていないところは繰り返し問題を解き力をつけてもらいたい。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学演習①	2	3年・2類・文型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
HHHHHHH	なし	2023 共通テスト実力養成 重要問題演習 数学 等	

科目の到達目標
・数学 I、数学 A の基本事項を再確認し、基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。
・問題の根底にある数学的なものの見方・考え方を常に意識する態度を養う。
・日々の演習により理解と思考を深め、共通テストおよび文系の入試に対応できる実力を養成する。

評価の観点と方法について
平素の学習意欲や態度を重要視し、基本的な内容の理解、数学的問題解決能力を確認テスト、課題レポート等で確認する。定期考査、確認テストの各成績、課題レポートの提出および内容、授業態度から総合的に評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	数学 IA の総復習 数と式 集合と命題 2次関数 2次方程式	学習してきた内容の 定着の確認	Select 60 の問題を中心に、共通テスト形式の問題に慣れ、制限時間内に解くことができるよう訓練をする。 Warming up の小テストを行い、基本事項の確認をする。	課題の提出状況と確認テストの結果は十分か。 定石が身についているかどうか。 題を解くときに典型的な問題に即座に反応し、機械的に処理できるかどうか。
	5	2次不等式 データの分析 (中間考査)			
	6	三角比 順列 組合せ 確率 平面図形 整数			
	7	(期末考査)			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	数学 IA の総復習	1 学期に学習した内容の定着	1 学期と同様に、Select 90 の問題を進めていく。	問題を解くときに典型的な問題に即座に反応し、機械的に処理できるかどうか。
	10	(中間考査) プレテスト開始		プレテストにより、実戦力を養う。	学習してきたマーク式特有の読み方・解き方が身についているか。
	11	(期末考査)	共通テストの数学①の本試験の過去問題等の解説を通して、マーク式の問題の読み方と解き方を身につける。	数学演習②と調整しながら、数回、本番と同じ試験時間を確保してプレテストを実施する。	
	12		学習してきた内容の定着の確認 本番同様の時間で問題を解き、時間配分を学習する。	苦手な分野については適宜、課題を準備して、十分な量が演習できるようにする。	50 分の考査時間で共通テスト数学①と同程度の難易・分量の問題を解くことができるか。
三 学 期	1		実践を繰り返すことにより得点力アップを図る。	共通テストプレテスト演習	誘導の狙いを即座に理解し、機械的に問題を解くことができるか。

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

この授業では、共通テストで高得点をとることを目指しています。授業を聞いているだけでは、数学の力はいってきません。自分の頭で考え、自力で解いて初めて、数学の力はついてきます。自分で解くことで、弱点を見つけ、その弱点を補強していくことを繰り返していきましょう。そして、積極的にいろいろな問題に挑戦してさらに実践力を養ってください。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学演習②	2	3年・2類・文型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
HHHHHHH	なし	2023 共通テスト実力養成 重要問題演習 数学等	

科目の到達目標
・数学Ⅱ、数学Bの基本事項を再確認し、基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。
・問題の根底にある数学的なものの見方・考え方を常に意識する態度を養う。
・日々の演習により理解と思考を深め、大学入学共通テストおよび文系の入試に対応できる実力を養成する。

評価の観点と方法について
平素の学習意欲や態度を重要視し、基本的な内容の理解、数学的問題解決能力を小テスト、課題テスト、課題レポート等で確認する。定期考査、小テスト、課題テストの各成績、課題レポートの提出および内容、授業態度から総合的に評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	数学ⅡBの総復習 式と証明 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数	学習してきた内容の定着の確認。	Select 60の問題を中心に、共通テスト形式の問題に慣れ、制限時間内に解くことができるよう訓練をする。 公式問題やWarming upの小テストを行い、基本事項の確認をする。	課題の提出状況と確認 テストの結果は十分か。 定石がみについているかどうか。 問題を解くときに典型的な問題に即座に反応し、機械的に処理できるかどうか。
	5	指数関数と対数関数 微分法と積分法			
	6	(中間考査) ベクトル 数列			
	7	(期末考査)			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9		1学期に学習した内容の定着	1学期と同様に、Select 90の問題を進めていく。	問題を解くときに典型的な問題に即座に反応し、機械的に処理できるかどうか。
	10	(中間考査)			
	11	プレテスト開始	共通テストの数学②の本試験の過去問題等の解説を通して、マーク式の問題の読み方と解き方を身につける。	プレテストにより、実戦力を養う。 数学演習①と調整しながら、数回、本番と同じ試験時間を確保してプレテストを実施する。	
	12	(期末考査)	学習してきた内容の定着の確認 本番同様の時間で問題を解き、時間配分を学習する。	苦手な分野については適宜、課題を準備して、十分な量が演習できるようにする。	
三 学 期	1		実践を繰り返すことにより得点力アップを図る。	共通テストプレテスト演習	誘導の狙いを即座に理解し、機械的に問題を解くことができるか。

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

授業を聞いているだけでは実力はつかない。目標を定め、それに向かって必死で努力する。やらされる勉強ではなく、自ら自発的積極的に数多くの問題を解くことによって、入試に対応できる力がついてくる。良問を1題でも多くやる事に尽きる。クイズを解くつもりで楽しみながらやればよい。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学Ⅲ	5	3年・2類・理型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
HHHHHHHH	高等学校 改訂版数学Ⅲ (数研出版)	チャート式 基礎からの数学Ⅲ (数研出版) 他	

<p>科目の到達目標</p> <p>微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。</p>
--

<p>評価の観点と方法について</p> <p>「関心・意欲・態度」「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「知識・理解」の4つの観点に基づいて、基本的な概念や法則などを体系的に理解するとともに、事象を数学的に考察・表現・処理する仕方や推論の方法を身につけ、活用できているかを評価する。評価方法は平素の授業への取り組み、小テスト、課題、定期考査等である。</p>
--

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	第4章 極限 第2節 関数の極限	関数値の極限の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・関数の極限(2) 三角関数と極限 関数の連続性	・関数値の極限について理解している。 ・微分係数・微分可能の定義とその図形的性質を理解している。導関数の性質、積の導関数、商の導関数、合成関数の導関数、逆関数の微分法を理解し、種々の導関数の計算に利用することができる。
	5	第5章 微分法 第1節 導関数	関数の積及び商の導関数について理解し、関数の和、差、積及び商の導関数を求める。合成	・導関数 微分係数と導関数 導関数の計算	・三角関数、指数・対数関数、陰関数、媒介変数で表された関数などの導関数を理解している。
		第2節 いろいろな関数の導関数	関数の導関数について理解し、合成関数の導関数を求める。三角関数、指数関数及び対数関数の導関数を求める。	・いろいろな関数の導関数 いろいろな関数の導関数 第n次導関数 曲線の方程式と導関数	・導関数の意味を理解しており、接線の方程式を導くことができる。
	6	第6章 微分法の実用 第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用	導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方程式を求めたり、いろいろな関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べグラフの概形をかいたりする。また、それらを事象の考察に活用する。	・導関数の応用 接線の方程式 平均値の定理 関数の値の変化 関数のグラフ	・平均値の定理を理解し、それを活用することができる。
		(中間考査)	積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。	・いろいろな応用 方程式・不等式への応用 速度と加速度 近似式	・関数の増減・凹凸・変曲点・漸近線などを調べ、関数のグラフをかきことができる。また、それらを利用して関数の最大値・最小値を求め、さらに方程式・不等式への応用ができる。
			第7章 積分法とその応用 第1節 不定積分 第2節 定積分 第3節 積分法の応用	積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。	・不定積分 不定積分とその基本性質 置換積分法と部分積分法 いろいろな関数の不定積分
			定積分 定積分とその基本性質 置換積分法と部分積分法 定積分のいろいろな問題	・被積分関数の形の特徴から、置換積分法や部分積分法を利用して、不定積分を求めることができる。 ・色々な関数の定積分を求めることができる。 ・特別な形をした数列の和の極限を定積分を利用して求めることができる。	

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
	7	(期末考査) (夏期講習)		・積分法の応用 面積 体積 道のり 曲線の長さ	・定積分を用いて様々な図形の面積や体積を求めることができる。 ・定積分を用いて様々な曲線の長さを求めることができる。
二 学 期	9	(中間考査)	標準問題までを確実に解く力量を養う。	入試問題演習 (標準編) 標準的な数学Ⅲの問題を演習する。 定期的に実力テストを行い、実践力を養う。	・1学期に学習した基本事項、定石を理解しているか確認する。
	10		標準問題までを確実に解く力量を養う。	入試問題演習 (実践編) 近年出題された入試問題を中心に、入試問題を実際に解く。 定期的に実力テストを行い、実践力を養う。	
	11		応用力をつける。 難度の高い問題を解く力量を養う。	数学演習①の授業と協力して、共通テスト対策の解説の授業と数学Ⅲの演習の授業に分けて、生徒のニーズに対応する。	
	12	今までの演習の総まとめ。 演習を重ねるごとに難易度を上げ、実力を養成する。 共通テストに備えて実践を積む。	個別に、志望校・実力に応じたレベルの問題の演習を実施する。		
		(期末考査) (冬期講習)			
三 学 期	1		共通テスト対策と私立・2次試験対策を行う。		

その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など)

2年次で、「第1章 複素数平面」「第2章 式と曲線」「第3章 関数」「第4章 極限 第1節 数列の極限」は履修をおえている。1・2年次に引き続き、小テストを行い、青チャート、青チャートの補助プリントと合わせてテスト前の課題とする。自分で解けるようになって初めて自分の力となる。自力で解くことの大切さを理解し、問題集は自力で解けるようになるまで、何度も同じ問題を解いてほしい。そうすれば、確実に数学の力はついていく。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学演習①	5	3年・2類・理型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
HHHHHHH	なし	こちらで準備したテキスト（プリント）等	

<p>科目の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学ⅠAⅡBの基本事項の確認と基礎学力の定着を図り、代表的典型的な入試問題に対応できる力を養成する。 ・解法のテクニックの暗記ではなく、根底にある数学的なものの見方・考え方を常に意識する態度を養う。 ・実践的な演習により応用力と実践力を高め、大学入学共通テスト等の入試に対応できる実力を養成する。
--

<p>評価の観点と方法について</p> <p>平素の学習意欲や学習態度を重要視し、基本的な内容の理解、数学的問題解決能力を課題ノート、課題テスト、振り返りシート等で確認する。</p> <p>定期考査・課題テストの各成績、課題ノート・振り返りシートの提出および内容、授業から総合的に評価する。</p>

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	数学ⅠAⅡBの演習	定理、公式の再確認をし、基本的な解法の定着を図る。	授業ではこちらで準備したテキストを進めていく。 二学期中間考査まで、色々な単元を順番を決めずに解いていく。	定理・公式を正確に使うことができるかどうか。
	5	(中間考査) 数学ⅠAⅡBの演習	共通テスト特有の問題ではなく、センター試験と同種の問題を身につける。		解法を理解し、問題を解くときに使えるかどうか。
	6		問題演習を通して、典型的な入試問題に対応できる力を養成する。		課題の提出状況 テストの結果
	7	(期末考査)			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	数学 IAIB の演習			今まで身に着けた解法を、入試問題を解くときに、利用できるかどうか。
	10				融合問題を解くときに、融合している1つ1つに気づき、正確な解法の道筋をたどることができるかどうか。
	11	(中間考査) プレテスト開始	共通テスト特有の読解問題、会話問題、長文問題に慣れる。	週に1回共通テストの数学のプレテストを数学①、数学②の順に実施する。 残りの授業では、実施したテストの解説または類題演習を行う。	
	12	(期末考査) 冬期講習	本番同様の時間で問題を解き、時間配分を学習する。	定期的確認テストを実施する。 共通テスト対策 プレテストを実施する。	
三 学 期	1			共通テスト対策 共通テスト後は志望校に応じた指導を行う	

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

授業を聞いているだけでは力がつきません。自分の頭で考え、自力で解かない限り、数学の力はついてきません。受け身ではなく、攻めの態度で取り組んでくれることを望みます。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学演習②	2	3年・2類・理型	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
HHHHHHH	なし	こちらで用意したテキスト（プリント）等	

<p>科目の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学I、数学A、数学II、数学Bの基本事項を再確認し、基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。 ・問題の根底にある数学的なものの見方・考え方を常に意識する態度を養う。 ・日々の演習により理解と思考を深め、大学入学共通テストおよび2次の入試に対応できる実力を養成する。
--

<p>評価の観点と方法について</p> <p>平素の学習意欲や態度を重要視し、基本的な内容の理解、数学的問題解決能力を小テスト、課題テスト、課題レポート等で確認する。定期考査、小テスト、課題テストの各成績、課題レポートの提出および内容、授業態度から総合的に評価する。</p>

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント	
一 学 期	4	数学IAIBの総復習	解法の定石を身につける。	授業で入試問題を解説し、その問題を解くことができるかどうかをテストで確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出状況 ・小テスト・課題テストの結果 	
	5	(中間考査)	標準的な問題について解法パターンを理解しその定着を図る。			<ul style="list-style-type: none"> ・定石がみについているかどうか。
	6		問題演習を通して、典型的な入試問題に慣れる。			<ul style="list-style-type: none"> ・問題を解くときに典型的な問題に即座に反応し、機械的に処理できるかどうか。
	7	(期末考査)				

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	数学IAⅡBの総復習 (中間考査)	解法の定石を身につける。	1学期と同様に実施する。	学習してきたマーク式特有の読み方・解き方が身についているか。 誘導の狙いを即座に理解し、機械的に問題を解くことができるか。
	10		標準的な問題について解法パターンを理解しその定着を図る。	共通テスト対策	
	11		問題演習を通して、典型的な入試問題に慣れる。		
	12	(期末考査)			
三 学 期	1			共通テスト後は個別の出願先に応じて2次試験対策、私立対策を行う。	

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

授業を聞いているだけでは実力はつかない。目標を定め、それに向かって必死で努力する。やらされる勉強ではなく、自ら自発的積極的に数多くの問題を解くことによって、入試に対応できる力がついてくる。良問を1題でも多くやる事に尽きる。楽しみながらやればいい。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学演習①	2	3年・3類	必修
授業担当者	教科書	副教材等	
HHHHHHH	なし	教科書学習ノート数学I (数研出版) ニュージャスト数学I+A (東京書籍)	

科目の到達目標
・問題演習を通して、数学IAの基本事項の再確認と十分な基礎学力の定着を目標として取り組む。
・数学的なものの見方・考え方を常に意識し、初めて見るような問題にも積極的に挑戦する姿勢づくりを行う。

評価の観点と方法について
・日常の学習における意欲・関心・態度を重視し、数学的な見方や考え方・問題解決の処理・知識の理解度を課題レポート、定期考査等で確認していく。
・特に、課題レポートの提出および内容を重要視していくので、必ず提出すること。

	月	学習单元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	数学Iの問題演習	数学Iの基本的な問題の解法を暗記し使いこなせるようになる。	2次関数のグラフ	
	5	<中間考査>		2次関数の値の変化 最大値, 最小値 2次方程式, 不等式	
	6	数学Iの問題演習		三角比 三角形への応用 正弦定理, 余弦定理 三角形の面積	
	7	<期末考査>	集合と命題 データ分析		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	数学Aの問題演習	数学I, Aの基本的な問題の解法を暗記し使いこなせるようになる。	場合の数と確率 順列, 組合せ 確率	公式、定理を理解し、問題を解くことができるか。
	10	<中間考査> 数学Aの問題演習			
	11			図形の性質 三角形の重心, 外心, 内心 円周角の定理 方べきの定理	
	12	<期末考査>			
三 学 期	1	数学I, 数学Aの問題演習 <学年末考査>	数学I, 数学Aの基本的な問題の解法を暗記し使いこなせるようになる。	数学I, 数学Aのまとめ	公式、定理を理解し、問題を解くことができるか。

その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など)

1, 2年次に学習した数学I, 数学Aの問題演習に取り組み、基本的な公式や定理について理解を深め、問題の解法を身に付けてください。1回目に解けなかった問題はそのままにせず、解答を読み、理解できていないところを見つけて、質問してください。そして、理解できた問題は、解法を暗記するまで繰り返し解いてください。